



# やあ!

1998  
JANUARY  
No.53

1



市町村文化財紹介  
西方町

鉄造薬師如来坐像

建治3年（1227年）に造られた西方町金井の薬師如来坐像は、鎌倉時代の優れた鉄仏に属し、たいへん貴重な彫刻である。

特徴は螺髪には旋毛を刻み、髪ぎわは水平、両瞼は肉厚でやや重たく、鼻と唇の表現はおおまかである。また心持ち面長で静かな表情をしている。

像高は89.7cm。台座も鉄造だ。昭和27年（1952年）に国の重要文化財に指定される。

Tetsuzou yakushinnyorai  
(Seated, Healing Iron Buddha)

Made in 1227, this Healing Buddha in Kanai, Nishikata Town is one of the most important engravings that exemplifies the excellence of craftsmanship on creating Iron Buddhas during the Kamakura Era.

The special characteristics of this Buddha are its detailed hair, full cheeks and less detailed nose and lips. The Buddha has an oval-face and a soft expression.

Its height is 89.7cm. The pedestal is also made of iron. The Healing Buddha was designated as an Important Cultural Asset of Japan in 1952.

青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介  
シリーズNO.8

## エクアドル

### リポート

フランス とちぎプロヴァンス文化工芸展  
中 国 栃木浙江友好会館「杜鵑樓」竣工式

- ◆ J E T コーナー 外国語指導助手 ヘレン・マックレガーさん
- ◆ 国際交流団体紹介 石橋町国際交流協会
- ◆ こんな店あんな店 中国料理 板屋飯店

**TIAホームページ**

URL <http://www.pto.co.jp/tia>

## 新年のごあいさつ

財団法人栃木県国際交流協会  
理事長 大江 敏夫



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃から当協会の事業や運営にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。1988年10月に設立されました当協会は、

お蔭様で10年目を迎えました。

昨年11月、栃木県の国際化を一層進めていくために「とちぎ国際交流センター」が開設されました。その中に移転して初めて迎えた新年です。

情報化時代のニーズに合わせて、インターネットコーナーやマルチメディアコーナーを設け、国内外の情報収集や、テープやビデオによる語学学習・国際理解学習がその場でできるようにいたしました。また自由に交流できる場として交流ラウンジをご用意しましたので、ご利用いただければ幸いです。

県内在住の外国人の数が年々増加しているなか、労働、健康、生活等で問題を抱える外国人の数も増えてきているのが現状です。今年度も現在までに約1,000件の相談が当協会に寄せられました。センターには相談室（個室）を設け、個人的な相談にも応じられるようになっています。

その他、講演会やセミナーのための多目的ホール、研修室、調理室、和室等の設備を用意しています。センターを有効に活用し、県民の皆様への国際理解の普及に貢献することが当協会の今後の課題です。

県内には120を越える国際交流団体があり、それぞれ独自のコンセプトで活動しています。地域で活躍している団体の皆様や、栃木県の国際化を願う県民の皆様と手を携え、今後とも国際協力・国際理解・国際交流の各分野にわたって事業を展開していくたいと思います。

今年も旧年に増してのご協力をお願い申し上げます。

### Happy New Year!

I would like to express my great thanks to you all for your support and cooperation with TIA in carrying out various events and programs. Established in October 1988, we are very pleased to have celebrated our 10th anniversary this year.

For the further internationalization of Tochigi Prefecture, "Tochigi International Center" was established in November of 1997. This is the first New Year that we will celebrate since moving to this new facility.

To meet the demands of this technologically advanced era, the center offers you a chance to surf the internet and experience the multimedia corner. These tools are available for collecting domestic or international information, learning languages and studying international relations. Tapes and videos of this nature are also available. In addition, there is a lounge available for the purpose of promoting international friendships. Please feel free to use this facility.

As the number of foreigners living in Tochigi increases, the number of those having problems (work related, health, adjusting to life in Japan, and etc...) increases. Due to this fact, we have advised approximately 1000 cases this year. Taking this into consideration when planning the center, we have also set up a consultation corner as well as private rooms in respect to privacy.

The other areas are used multipurpose hall for lectures and seminars, a study room, a cooking room, and some Japanese style rooms. Our main purpose in the future is to contribute to further deepening the international understanding of people in Tochigi with the effective use of this facility.

There are more than 120 international cooperatives / associations in this prefecture and each of them actively works within individual areas. We hope to work with these active associations and with the people of Tochigi, in further developing of internationalization in Tochigi by further promoting international cooperation, international understanding, and international relations.

We look forward to your continued cooperation.

Toshiro OE  
Chairman of Directors  
Tochigi International Association

about 15,000 people situated on the eastern side of Tochigi prefecture. It is famous for its onsen, Koisago pottery and the exhibition of Hiroshige prints.

My family came to visit me during summer vacation last year. I was a little worried about them coming because there were nine of them, seven adults and two children. My major concern/nightmare was losing one of them during peak rush hour on the Yamanote train. Fortunately, this didn't happen.

During their time in Japan they had the opportunity to do many things, to visit Tokyo Disneyland, Himeji Castle, Kyoto and Hiroshima. But the thing that stood out most in their minds was when they visited my small home town of Bato. They had the opportunity to participate in the Bon Odori festival and a welcome party that my office had for them. My Supervisor Mr. Kimura organized a day trip to Nikko for my parents. My father was also lucky enough to play a round of golf with the superintendent, Mr. Takano.

After seeing as much as they could squeeze into their short time in Japan it wasn't so much the sights that they found impressive but the kindness and hospitality of the people.

This experience showed me that even though Japan is rich in culture and has many interesting things that are visually obvious, the real beauty of Japan can only be found in the warmth of the people.

## JETコーナー

外国語指導助手  
ヘレン・マックレガーさん  
(ニュージーランド出身)



こんにちは。ニュージーランド・ウェリントンの北部にあるポリルア出身の私の名前はヘレン・マックレガー。馬頭町にいる2年目の外国語指導助手です。栃木県の東側に位置する馬頭町は人口15,000人の小さな町で、温泉、小砂焼や広重展で有名です。

昨年の夏、私の家族（7人の大人と2人の子供）が来日観光することになり、私は

少々不安でした。最大の悪夢は山の手線のラッシュアワーで1人でも失うことでしたが、幸運にもそれは起こりませんでした。

日本滞在中彼らは、東京ディズニーランド、姫路城、京都、広島に行ったりその他多くのことをする機会がありました。一番印象深かったのは、私の小さな故郷馬頭町での出来事のようでした。盆踊りへの参加、教育委員会による歓迎会への出席、両親のために木村指導主事が計画してくださった日光1日観光、そして父は運良く高野教育長とゴルフまでしました。

この短期日本滞在にできる限りのものを見て、彼らが感動したのは光景ではなく人々の思いやりや厚遇でした。この経験から、日本は文化が豊富であり興味深い事が沢山あるというのは明らかですが、日本本来の美学は人々の温情にあるということを知りました。（英文原稿要約）

Tena Koe. My name is Helen McGregor and I am a 2nd year Assistant Language Teacher in Batomachi. I come from Porirua, a city of Wellington, in New Zealand. Batomachi is a small town of

# REPORT リポート

中国・浙江省

## 栃木浙江友好会館「杜鵑樓」竣工式

栃木県と中国浙江省の交流の拠点として建設されていた栃木浙江友好会館「杜鵑樓（とけんろう）」が竣工し、11月28日に記念式典が開催された。

完成を祝うために本県からは、渡辺文雄県知事をはじめ、県議会や経済会の訪問団、そして式典参加の募集に応じた県民で構成



▲杜鵑樓内のホールでテープカットをする両県省関係者（左から5番目が渡辺文雄知事、6番目が柴松岳浙江省長代理）

## フランス・ヴォークリューズ県 とちぎプロヴァンス工芸展

フランスにおける日本年（1997年）のイベントとして、ヴォークリューズ県のプロヴァンスジャポン協会の主催で、「とちぎプロヴァンス文化工芸展」がアヴィニヨン市の「メゾンドヴァン（ワインの館）」で11月7日～15日に開催され（7・8・12日の3日間に実演）、栃木県から小菅充県副知事、伝統工芸家3名（手すき和紙の福田弘平氏、ふくべ細工の小川昌信氏、益子草木染の日下田正氏）、及びとちぎプロヴァ



▲カヴァイヨンフェアのプロヴァンスジャポン・ブースで日本文化を紹介

される県民訪中団（大江敏夫団長）等計180名程が現地を訪れた。

「杜鵑樓」は、浙江省はもちろん中国でも有数の景勝地である西湖の西山麓の一角に位置し、一部4階建て、宿泊室35室、研修室、会議室、応接室の他、栃木県を紹介するパネルや県産品を展示した展示コーナーを備えている。敷地面積4,000m<sup>2</sup>、延べ床面積3,800m<sup>2</sup>。総工費3億5千万円の内、栃木県負担は1億円となっている。「杜鵑」は中国語で「つつじ」の意味。本県の県花の「やしおつつじ」に因んで名付けられた。

周辺には、同省と友好交流を結ぶ静岡県と福井県の友好会館もあり、3館の一体的な利用で、大規模な訪中団による交流等も期待されている。

記念式典では、渡辺文雄県知事、柴松岳浙江省長代理、沈祖倫人民対外友好協会会長、新井県議会議長があいさつし、記念品の贈呈後、両県省関係者たちによるテープカットが行われた。またセッコウトチノキの記念植樹



も行われた。

一方、式典前夜に西湖畔の西子賓館で開催された記念パーティーでは、栃木県からは県交響楽団員が、浙江省からは青少年民族音楽団が演奏した。また会場の全員が県交響楽団の伴奏に乗って「北国の春」を合唱し、更に中国の歌「海はふるさと」を県民訪中団が中国語で歌い、両県省の友好の絆を深めた。



県民訪中団は91名。11月25日に成田空港を出発し、上海市や浙江省杭州市を観光し竣工記念式典等に参加したあと、蘇州をまわり、11月30日に無事に帰国した。



通訳が少ない状況のなか、参加者全員が四苦八苦しながら説明した。



通訳が少ない状況のなか、参加者全員が四苦八苦しながら説明した。

会場では、工芸家が手すき和紙、ふくべ細工、草木染を実演・展示したり、またとちぎプロヴァンス協会設立準備委員会のメンバーによる生け花、茶道、着付け、折り紙等が披露された。

更に一行は、アヴィニヨン市の南東約40kmに位置するカヴァイヨン市郊外で開催された「カヴァイヨンフェア」のプロヴァンスジャポン協会ブースでも、11月9・10日、同様に日本文化を紹介した。

両会場とも予想を上回る沢山の来場者で大混雑。羽織袴や作務衣姿で実演する工芸家のブースは終始人ばかりだった。また会場のあちこちで日本文化に対する質問が飛び交い、

「日仏自治体交流・協力促進セミナー」が11月6・7日、パリ市のフランス上院議会内会議室で開催され、栃木県からは小菅充県副知事が参加した。このセミナーはフランスにおける日本年の協力事業として、日仏自治体間の交流の促進と、日仏自治体相互の協力活動の発展を目的とし、日仏自治体の首長等及び国際交流・協力活動の専門家による基調講演とパネルディスカッションが行われた。

小菅県副知事は開会の挨拶の中で、栃木県とヴォークリューズ県のこれまでの交流の成果に触れ、自治体レベルと民間レベルの日仏交流の重要性と、様々な分野における日仏自治体相互の今後の協力活動の発展の可能性を話した。



浙江省の西湖畔に建てられた栃木浙江友好会館「杜鵑樓」

セミナーに参加した小菅充副知事（左）

# エクアドル ECUADOR

国名のエクアドルは、スペイン語で「赤道」の意味。太平洋岸の低地やアマゾン川上流地域は一年中高温多雨だが、中央部のアンデス山脈は暑くなく、日本の春のように過ごしやすい。標高3,000mの首都キトは赤道付近に位置しているが快適である。

主な産業は石油産業で輸出の60%を占める。農業ではコーヒー、カカオ、バナナ等が盛んである。ダーウィンの「進化論」で有名なガラパゴス諸島がある。

## 年に4～5回のストライキ

実はアフリカで活動することを希望していましたので、任地が南米のエクアドルと知られたときは少し驚きました。でも、どこでも国際貢献をすることには変わりません。そこで気持ちを入れ替えて、エクアドルの首都キトのバカオルテス国立小児病院に栄養士として着任しました。

比較的立派で設備も整っているこの病院での私の仕事は、午前中医者の回診に付き添い、入院患者のその日の食事のメニューを決めることです。先生（医者）の話をチェックしなくてはならないのですが、何しろまだスペイン語が良く分からないので、聞き取るのに本当に苦労しました。そして午後は栄養指導板の作成です。一般の人や子供向けにイラストを盛り込みながら作りました。現地の人に作らせると文字ばかりなんです。やっぱり子供に興味を持たせるには絵を混ぜたほうがいいようです。栄養士を目指す学生たちが協力的だったので大変助かりました。

驚いたのは病院のストライキです。年に4～5回もあり、内容も医者だけ、看護婦だけ、調理員だけと様々です。度重なると驚きから怒りに変わってきます。更に現地の栄養士の間で人間関係が悪かったりと、

案内人

にしづかまさえ  
西塚昌枝さん (30歳) 岩舟町立岩舟中学校 学校栄養職員



幼少の頃、干ばつで飢えに苦しむアフリカの人たちの話を知り、栄養士になることを決意。岩舟中学校在籍中、「海外で技術的な貢献をしてみたい」と青年海外協力隊に参加する。南米エクアドルの首都キト及び地方都市ロハの病院で、栄養士として1995年4月から1997年4月まで勤務。現職参加。

仕事をする上でマイナス面ばかりが目立ちました。こうした理由と、大都市よりも地方都市で仕事をしてみたいという私の願いが合わさり、1年後、キトからバスで14時間という南部の町ロハのイシドロアヨラ国立地方病院に任地変更となりました。

## 週1回の勉強会と普及活動

この病院は設備はひどくその上汚いときてまして、「ここがまさしく私の仕事場」と労働意欲が湧いてきました。まず目に入ったのは衛生面での無頓着さ。私が来る前は調理員がエプロンをしていなかったり、厨房が一般人の通り道になっていたりしていましたが、それも改善されました。次に私は、栄養部の調理員の人たちの要請で、栄養・食事に関する勉強会を週1回開催することにしました。時間どおりに始まらないこともありますが、みんな熱心に話を聞きます。この勉強会の噂を聞いて、保育所の職員にもやってほしいと要請があつたりして、次第に栄養への関心度が高まってきました。

病院内の仕事以外に、栄養の普及のために国内の他の施設をあちこち歩き回りました。小学校で先生に、スポーツ施設で選手の家族に、またインディオの村でその住

民に栄養指導を行いました。インディオの村人は貧しいので食料品がなかなか買えず偏った食事をしています。でも講習のときは沢山の人ができるかぎりの食材を持って集まり、真面目に説明を聞き、調理実習を楽しく行いました。少しは栄養の必要性を理解してくれ



▲インディオの村で栄養指導の後調理実習を行う

たようです。この出張栄養指導はやってよかったですと私自身満足しています。

## エクアドルの食料・栄養事情

エクアドルではインディカ米が主食で、野菜の種類も豊富です。肉類は鶏肉が一番高く、豚肉、牛肉と安くなります。輸入品の缶詰等は高いです。

栄養状態を全体的に見ますと、野菜の摂取量が少ないようです。食材はあるので栄養は十分にとれるはずなので…。インディオの人たちに関しては先程も述べましたが、収入が少ないため、更に買い物する店が遠いため（往復に2日もかかることがあります！）食べ物が偏ってしまいます。山岳部に住む彼らは、たんぱく質が少なく子供たちが大きく育ちません。最近の日本の子供たちはたんぱく質や脂肪が増えてきているので、体が大きいですよね。



▲あるレストランの昼食（日本円で100円程度）はスープ、ご飯、煮豆のおかず、ジュースのセット

左端に実習に来ている学生たちと



►ガラパゴス諸島のガラパゴスゾウガメの大きさにビックリ



家庭科の授業や学校給食がないこの国では、食事に対する興味や基本的な知識がまったくないように思います。味付けは濃すぎたり甘すぎたりしていて、たいてい砂糖と油の取りすぎです。だから高血圧や糖尿病の人が多いです。

エクアドルでは失業者が多く、物乞いをしている人も少なくありません。このような状況なので、食事ができずに栄養障害を持つ子供が増えてきているのも現実です。

### 誕生日におしりを叩かれる

衣類についてですが、インディオは帽子や布の民族衣装をまとっていますが、一般の人は洋服です。衣服は高いのでもっぱら古着屋を利用します。

住宅を見てみると、日本よりも造りは大きいです。特にダイニングが広く、家で頻繁にパーティーを開いています。かなり立派な一戸建てが300万円で買えると聞いて、私も欲しくなりました。でも一般人の平均給料は約2万円。これでは足りないので、副業にタクシーの運転手をやったり、何かを作つて売っています。

次に文化面ですが、誕生日の風習でおもしろいことがあります。それは歳の数だけベルトでおしりを叩かれ、顔をケーキにつけられることです。叩く理由は



◀誕生日に歳の数だけおしりを叩かれる

はっきり分かりません。でも叩くほうも叩かれるほうも楽しそうです。また年末には、等身大人形を作りそれを焼いて厄払い



▶燃えた人形の上を飛び越える



◀子供の人形の形のパン



◀た子供たちのパレード

する行事があり、火を3回飛び越えると翌年幸運になると言われています。

11月始めは「死者の日」で、お墓参りをします。お墓の近くでは子供の人形の形をしたパンが売られ、みんな沢山買っていきます。他に、カトリックにとって大切なクリスマスには、着飾った子供たちのパレードがあり街は盛り上がります。

### 珍しい動物の島ガラパゴス

観光のメインはやはりガラパゴス諸島です。キトから飛行機で1時間半、太平洋上に浮かぶこの諸島は、ダーウィンの「進化論」で一躍有名になり、世界中から観光客が訪れます。島全体が動物園となっているので、入島料80ドルを支払わなければなりません。ガラパゴスゾウガメ、お腹が赤いイグアナ、赤目カモメ、ゲンカンドリなどこの島固有の動物が生息しています。

人が住んでいる島が3つあります。ホテルもあります。日本からバック旅行等でこの島に来る人もいるようですが、エクアドルの人たちにとっても、一生に一度は訪れたい、いわば「夢の島」と思われています。

ガラパゴス諸島

以外にももちろん観光地は沢山あります。6,000m級の山々が連なるアンデス山脈は登山家を魅了しています。日本からも山岳隊が来ています。東部低地にはアマゾン川の源流が広がり、クルージングやカヌーで奥地まで行く秘境ツアーもあります。また山岳部南部のインガピルカには、インカ帝国の遺跡が残っています。殆どが破壊されてしまっていますが、当時の住居の様子をうかがえます。



▲インガピルカの遺跡

キト北東の町オタバロでは毎週土曜日に市が開かれ、織物や民芸品が売られます。質のよい民芸品が買えるので、全国から多くの人が集まります。見ているだけでも飽きませんが、気に入ったものを值切って買うのも楽しいですよ。



◀毎週土曜日に開かれる市  
でオタバロ

### データ



#### [国旗の意味]

黄は富と太陽、青は海と空、赤は独立闘争を表す。中央にアンデス特有の白い首のコンドル、チンボラソ火山、商船、太陽、黄道、旗などが描かれている。

### エクアドル共和国

- ① 面積 284,000km<sup>2</sup>
- ② 人口 1,146万人（95年）
- ③ 首都 キト
- ④ 主要言語 スペイン語
- ⑤ 民族構成 メスティーソ、インディオ、白人、黒人等
- ⑥ 宗教 カトリック
- ⑦ 通貨 スクレ
- ⑧ 元首 大統領
- ⑨ その他 協力隊員の派遣人数121人  
栃木県からは6人

## 国際交流団体紹介

### 石橋町国際交流協会

石橋町国際交流協会は平成4年2月に設立され、法人等36団体、個人300名の会員が加入し、平成5年に策定した「交流のまちづくり推進計画」に沿った各種事業が展開されています。

石橋町はドイツのシュタインブリュッケン（ドイツ語で石橋、現在は合併してディーツヘルツタール）と児童の図画等の作品交換から始まった交流が進展し、昭和50年4月に姉妹都市が締結され、町民の相互訪問などの交流が行われています。そして、姉妹都市のあるドイツ・ヘッセン州が世界の人達に夢とロマンを与えてくれた「グリム童話」で有名なグリム兄弟が活躍したゆかりの地でもあることから、町ではグリム兄弟にちなみ、町づくりのテーマを「世界に誇るグリムの里づくり」と定め、個性的で魅力的な町づくりが進められています。

協会では、平成6年に一般町民による第3次姉妹都市訪問団を、平成8年には中学生を姉妹都市へ派遣し、交流を進めています。本年度の事業としては、外国語講座として年間を通して「英会話講座」「ドイツ語講座」を開設、8月にはドイツの大学生12名が約1か月間、町内家庭にホームステイをしながら日本語や日本文化を勉強し、ホストファミリーとともに盆踊り大会に参加するなどの交流を図る「グリムの里日本語講習会（5回目）」を開催しました。また12月には初の試みとして、在住外国人との友好交流事業「クリスマスパーティーinグリムの館」も開催しました。

今後の事業展開においては、益々国際化が進み定住する外国人の数も増える中で、相互理解が図れるような活動を進めなければならないと考えています。

（事務局：☎0285-52-1118）



▲グリムの里日本語講習会参加者とホストファミリーの皆さん（盆踊り）

### こんな店 あんな店

#### 中国料理 板屋飯店

市内にあり、交通も至便なホテルニューアルティヤガリニューアルオープンすると同時にできた板屋飯店は、25年を経過した。この料理は四川風中国料理をメインとしたもの。今までホテル利用者を始め、多くの人々にこの味が親しまれてきた。もちろん、日本でご存じの有名料理は、全て網羅され



▲コース料理の例

ている。中国料理と一言でいっても奥が深いが、日本人の口にあった中国料理を提供してくれている。コースメニューとアラカルト（一品料理）の両方があるが、一般的にはアラカルトのほうが多いそうで、しかも出張などでたびたび県外から訪れる常連客の間では、板屋飯店の中国料理は大変好評のようだ。主なメニューを紹介すると、コースメニューでは人数に応じて、芙蓉（¥5000・5品・2-3人分）福寿（¥12,000・7品・3-4人分）蓬萊（¥25,000・8品・5-6人分）鳳凰（¥30,000・9品・8-10人分）となっている。また、年1回6月初旬頃、中国料理の夕べと称する中国料理を楽しむイベントを開催している（1人¥13,000）。アラカルトメニューで人気のあるものは、海老チリ（¥2,000）、ホイコーロー（¥1,500）青椒肉絲（¥1,500）、杏仁豆腐（¥1,500）。蒸しギョウザ（海老・フカヒレの2種類）もよく出るそうだ。

お酒は何といっても紹興酒（¥2,000）が人気で、杏で作った杏露酒（¥2,000）は女性に人気があるそうだ。

この他、ランチメニューとして、日替わりメニュー（¥1,000）や中華定食の下野（¥2,000）があり、少しずついろいろな味が楽

### 知ってて得する なんでもQ&A

#### 〔旅券の残存有効期限についてパートⅢ〕

今回で残存有効期限については最後になります。

タイ：無査証の場合→入国時6か月以上  
査証申請の場合

→申請時6か月以上

中国：（東京発券のもの）団体3か月以上  
個別→30日滞在 4か月以上（申請時より）

90日 6か月

180日 10か月（親戚訪問のみ）

半年 7か月

1年 13か月

シンガポール：入国時6か月以上必要  
(無査証の場合も同じ)

妊娠6か月以上の者

→6か月+滞在日数以上

オーストラリア：帰国時まで有効なもの  
(査証欄余白は1頁必要)

詳しくは各旅行会社にお問い合わせ下さい。



しめると好評のようだ。

少し変わった料理として、お米を油で揚げたものに餡を掛けて食べるおこげも幾つか種類があり、おいしいそうだ。

もちろん五目入りそばなどめん類も豊富に取りそろえている。

8名程度収容可能な和洋の個室が1部屋ずつあるので、ちょっとした食事会を中国料理でとお考えの方にはぴったりでは。

▶ 営業時間＝ランチ  
11:30～14:00、ディナー17:30～20:30  
(ラストオーダー)  
▶ 定休日＝無休▶住所・電話＝宇都宮市  
大通り2-4-6 ☎028-  
635-5511

足利銀行  
田川  
JR宇都宮駅  
板屋飯店  
(ホテルニューアルティヤ内)  
大通り

# 情報発信 地域の国際交流案内

## ★「しもつけの民話」第2集発刊

英文情報誌 "Tochigi Times" を発行している「栃木タイムズ」は、栃木県に伝わる民話をを集め英訳した「しもつけの民話」第2集を出版した。日本語の要約文も付いている。ご希望の方は次の連絡先まで。▶連絡先=栃木タイムズ代表・鈴木美恵子 ☎028-622-1066

## ★中・高生のための国連協会春期海外研修

(財)日本国際連合協会は、国連に対する認識を高めてもらうことを目的に、中学生・高校生を対象に海外研修を実施する。▶研修内容=Aコース:オックスフォード英語研修とホームステイ体験10日間(1998年3月25日~4月3日、348,000円)、Bコース:サンディエゴ英語研修とホームステイ体験11日間(1998年3月25日~4月4日、338,000円) Cコース:ニュージーランド英語研修とホームステイ体験8日間(1998年3月25日~4月1日、358,000円)、Dコース:オーストラリア英語研修とホームステイ体験10日間(1998年3月25日~4月3日、348,000円) ▶募集定員=各コース30名 ▶説明会=1998年1月24日(土)14:00~15:30 JR宇都宮駅ビル内パセオ9階会議室 ▶問い合わせ=日本通運(株)宇都宮旅行営業所 ☎028-625-5064

## ★中・高生のバングラデシュ・スタディツアー

バングラデシュの農村で貧しい人たちの生活向上のために協力活動を行っている民間ボランティア団体「シャプラニール=市

民による海外協力の会」は、中学生・高校生を対象に「バングラデシュ・スタディツアー」を開催する。▶期日=1998年3月26日~4月3日 ▶訪問国=バングラデシュ(首都ダッカとシャプラニールが協力活動を行っている農村地域) ▶対象=中学生及び高校生(15~18歳) ▶募集定員=10名 ▶内容=バングラデシュの人々の生活の様子や海外協力の現場を見学 ▶参加費=20万円 ▶募集締切=1998年1月31日 ▶応募方法=参加申込書1通及び作文(400字詰め原稿用紙3枚で「国際協力」に関するテーマで書く)を郵送 ▶問い合わせ=シャプラニール〒169東京都新宿区西早稲田2-3-1早稲田奉仕園内 ☎03-3202-7863

## ★国際ワークキャンプ

NGO「NICE(ナイス)」は、世界中の若者が2~3週間に一緒に生活しながら地域の人々と環境と福祉のボランティアを行う「国際ワークキャンプ」の参加者を募集する。▶場所と内容=①フィリピン:孤児院の養魚池作り(1998年4月4日~24日)②フィリピン:先住民達と水道作り(1998年3月22日~4月10日)③熊本県水俣市:地域再生の森作り(1998年3月22日~4月2日)④三重県大宮町:「螢と昆虫の里」作り(1998年3月25日~4月1日)⑤中国北京郊外:植林(1998年4月30日~5月11日) ▶参加資格=18歳以上で英語力片言以上 ▶参加費=15,000~45,000円及び渡航費を自己負担 ▶資料請求=300円分の切手を事務局へ郵送 ▶問い合わせ=NICE〒160東京都新宿区新宿2-2-1-501 ☎03-3352-7727

## ★「国際ガイドコンテスト」及び「外国人の目からみた日本文化」の開催

▶日時=1998年2月22日(日)13:30~16:00 ▶場所=宇都宮市総合福祉センター ▶内

容=「国際ガイドコンテスト」は日本人が英語で日本の文化等を紹介、「外国人の目からみた日本文化」は外国人が自国の文化と比較しながら日本文化をスピーチする。▶入場料=無料 ▶問い合わせ=とちぎYMC A ☎028-634-8581

## ★青年海外協力隊帰国隊員報告会

▶日時=1998年1月24日(土)14:00~16:30 ▶場所=とちぎ国際交流センター ▶内容=青年海外協力隊員として活躍し帰国した人たちによる協力活動報告他 ▶問い合わせ=青年海外協力隊OB会事務局 ☎028-621-0777

# TIA日誌

1997年11月1日~1997年12月31日

- 11/ 5 青年海外協力隊秋募集説明会 (大田原市)
- 11/10 とちぎ国際交流センター開設記念式典及び記念事業 (~15)
- 11/11 青年海外協力隊秋募集説明会 (小山市)
- 11/12 日本語講座後期開講 (センター)
- 11/14 民間国際交流団体紹介事業 (~15)
- 11/16 第2回国連英検一次試験 (宇大)
- 11/18 栃木浙江友好会館竣工記念県民訪中団結団式 (センター) 無料法律相談 (センター)
- 11/19 青年海外協力隊秋募集説明会 (宇都宮市)
- 11/25 栃木浙江友好会館竣工記念県民訪中団出発 (~30)
- 12/16 海外技術研修員・受入研修機関担当者合同打合せ会 (センター)
- 12/22 日仏青少年短期研修事業派遣生徒選考会・第2回実施委員会 (センター)

## 栃木県交響楽団

第64回  
定期演奏会

曲目 ベートーベン 交響曲第4番  
ドボルザク チェロ協奏曲  
レスピーギ 交響詩「ローマの松」

指揮  
井崎 正浩

チェロ  
向山 佳絵子



2/8(日) PM 2:00 ▶宇都宮市文化会館大ホール  
全自由席¥1,500 宇都宮市内プレイガイドにて前売  
お問い合わせ 栃木交響事務局 ☎028-623-3422

成田空港へ直線、高速バス メープル号! 毎日4往復

太田・足利・佐野 ←→ 成田空港  
3時間10分

●大人4,300円。 小児2,150円。(15名様以上団体割引)

●メープル号予約センター 太田 ☎0276-48-6286



関東バス

成田空港ゆき			
太田駅南口発	足利市駅発	佐野発	成田空港着
4:40	5:00	5:35	7:50
5:40	6:00	6:35	8:50
11:40	12:00	12:35	14:50
13:40	14:00	14:35	16:50

佐野 足利 太田ゆき			
成田空港発	佐野着	足利市駅着	太田駅南口着
8:40	10:55	11:30	11:50
13:50	16:05	16:40	17:00
16:40	18:55	19:30	19:50
19:10	21:25	22:00	22:20

# TIA Information Corner

## ★外国文化体験教室「世界と遊ぼう」

TIAは在県外国人の方に、その国の文化等について楽しみながら教えてもらう体験講座を開催します。▶日時=1998年2月1日(日)10:00~16:00 ▶場所=とちぎ国際交流センター ▶内容=①料理紹介／アフリカ料理(先着16名) ②文化紹介／アジア・太極拳、ラテンアメリカ・音楽、欧洲・フランスのゲーム、北米・スクエアダンス ▶参加方法=電話かFAXで事前に申し込んでください。▶参加料=無料 ▶申込・連絡先=財団法人栃木県国際交流協会 028-621-0777/FAX028-621-0951



## TIAライブラリー案内

### ●新しい開発教育のすすめ方～地球市民を育てる現場から



関西セミナーハウスに学校教師が集まり、貧困、人権、環境等の問題をテーマに模擬授業を行い、各分科会で授業案を作成した成果を編集したこの本は、「いかに発展途上国への課題を教えるべきか」よりも「何を教えるべきか」を問い直し、教師たちがどういう視点から開発教育に取り組むかが書かれている。(開発教育推進セミナー著)

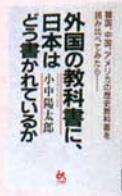
関西セミナーハウスに学校教師が集まり、貧困、人権、環境等の問題をテーマに模擬授業を行い、各分科会で授業案を作成した成果を編集したこの本は、「いかに発展途上国への課題を教えるべきか」よりも「何を教えるべきか」を問い合わせ直し、教師たちがどういう視点から開発教育に取り組むかが書かれている。(開発教育推進セミナー著)

### ●アジアの現代文学・ベトナム～ベトナム現代短編集1



1987年から1993年にかけてベトナムで発表された短編小説の中から、新時代の息吹を感じられる作品「冗談みたいな話」「盲目的歌手」など8編を収集。今日のベトナムの情報がいきいきと再現されており、ベトナム人の日常の一側面を知ることができる。また、ベトナム戦争が今も人々の上に落としている影にも触れられている。(加藤栄訳)

### ●外国の教科書に、日本はどう書かれているか



韓国、中国、アメリカの教科書に書かれている日本の歴史や現代の日本の姿は、日本で私たちが学ぶ内容とどれだけ違うのかが描かれている。また付録として、戦前の歴史教科書に書かれた日本史の虚実等にも触れている。(小中陽太郎著)

### ●共同研究 出稼ぎ日系ブラジル人

本署は、入管法改正直後から4年余にわたって継続的に行われてきた日系ブラジル人の出稼ぎに関する調査・研究をもとに構成されている。上巻論文編「就労と生活」は、出稼ぎをめぐる状況と変化、日系ブラジル人の労働と

生活、家族の呼び寄せと子供の教育、ブラジルの社会状況と出稼ぎの影響等について、また下巻資料編「体験と意識」は、事業所・人材斡旋会社の17事例、出稼ぎ者個人の50事例93人のケーススタディから構成されている。(渡辺雅子著)

### ●ボランティアを始めよう



ボランティア活動をこれから始めようとする人が、自分に合った活動を捜すために役立つ、ボランティアの入門書。50種類のボランティア活動がそれぞれ分野別に紹介されている。また基本的な活動内容や資格の有無、活動のための心構え、問い合わせ先なども記載されている。その他、実際に活動しているボランティアの声やコラム情報も盛り込まれている。(イエローリポート編)

## TIA賛助会員募集中！

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ(海外→日本、日本→海外)をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。

※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会  
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内  
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)  
FAX 028-621-0951  
業務時間 8:30~17:15 土曜・日曜・祝祭日・年末年始は休業